

令和 5 年度 東京都立芦花高等学校 学校経営計画

東京都立芦花高等学校

校長 松 田 晴 美

I 目指す学校

本校は、

自主 …… 自学自習の精神に溢れ、生涯にわたり自主的に学び行動する生徒を育成する

創造 …… 創造的精神に溢れ、国際社会に貢献しようとする意欲ある生徒を育成する

誠実 …… 人権尊重の精神に溢れ、仁慈に富み、明朗かつ誠実な生徒を育成する

ことを教育目標とする進学型単位制普通科の学校である。この目標達成とともに、スクール・ミッション、スクール・ポリシー、グランドデザインに基づき、学習指導、特別活動（ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動）の指導及び部活動指導をバランスよく行う。また、多様な考えを受容する柔軟さを備え、自らの意志と判断に基づき、目標に向かって主体的に行動できる生徒を育成する。

1 目指す学校像

教科、総合的な探究の時間（含「人間と社会」）、特別活動、部活動の各場面において、主体性をもって学びに向かう力、社会の課題を解決し価値を創造する力、確かな学力、豊かな人間性、健康と体力を育む指導を 3 年間継続し、次世代を担う有為な人材を育成する学校。

- (1) 学習指導の充実に努め、知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題解決力、探究力、創造力を育成し、学力向上を図る学校。
- (2) キャリア教育を推進し、生徒一人一人が 10 年後の輝く自分を見つめて高校卒業後のキャリア・ビジョン（進路希望）を創造し、夢をかたちにする学校。
- (3) 文武両道を実践し、学習、特別活動及び部活動に主体的・意欲的に取り組む生徒を育成する学校。
- (4) 心身ともに健康で調和のとれた人間を育成するとともに、人間尊重の精神、規範意識、互いの人格を尊重し豊かな人間関係を築く力、協働性（自己理解・他者理解の力）を育てる学校。
- (5) 教職員がライフ・ワーク・バランスよく、その指導力及び職務遂行能力を十分に発揮し、本校の教育目標や学校経営計画達成に向け、チームワークよく協働できる学校。
- (6) 健康教育の充実と学校保健活動の活性化を図り、生徒の健康や体力の保持増進を図る学校。
- (7) 防災・安全教育を推進し、地域と連携して社会貢献の精神を育む学校。
- (8) 情報を積極的に発信するとともに、学校開放等を推進し、保護者や地域から信頼される学校。

2 スクール・ミッション

「自主、創造、誠実」を教育目標に、生徒一人一人の個性や進路希望等に応じた多様な学習や、キャリア・ビジョンを創造・具現するキャリア教育を通して、主体性をもって学びに向かう力、社会の課題を解決し価値を創造する力、豊かな人間性、協働性を持った人材を育成する。

3 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

グローバル社会、超スマート社会・創造社会 Society5.0 を生きる力として、主体性をもって学びに向かう力、社会の課題を解決し価値を創造する力、確かな学力、豊かな人間性、健康と体力を育成するとともに、10 年後の輝く自分を見つめて高校卒業後のキャリア・ビジョン（進路希望）を創造し、夢をかたちにする力を育む。

(2) カリキュラム・ポリシー

第二外国語、保育基礎、弓道、ビジュアルデザイン等の多彩な選択科目を設置するなど単位制高校の利点を生かし、進路希望実現を意図した系統的な科目の履修及び興味・関心の幅を広げる科目の履修を通して、確かな学力や幅広い教養を身に付けさせる。

(3) アドミッション・ポリシー

- ① 大学進学等将来への目標が明確であり、入学後も主体的に学習に取り組むことができる生徒
- ② 思考力、判断力、表現力を幅広く身に付けるため、全ての教科の学習に積極的に取り組むことができる生徒
- ③ 授業とともに、学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に取り組むことができる生徒
- ④ 時間や行動の自己管理とともに、集団の一員としての自覚をもって他の生徒と協力することができる生徒

II 中期的目標と方策

1 授業の充実

全ての学習の基盤となる言語能力の育成をはじめとして、Society5.0 を生きる力を効果的に育むため、生徒の主体的な学習を促す教材や指導方法を工夫し、授業の充実を図る。自学自習や読書活動の推進を通して、確かな学力、豊かな教養、幅広い視野を育む。

さらには、生徒の学力分析や生活状況調査、学校評価、授業評価の結果等から課題を抽出し、組織的なOJTや校内研修等を通して授業力、進学指導力、デジタル技術活用力の向上を図る。

2 進路指導の充実

大学説明会や大学出張講義等の進路に係る行事をキャリアガイダンス部が中心となって組織的・計画的に行うなど、生徒の発達段階に応じたきめ細かなキャリア教育を推進し、生徒の進路希望実現を図る。キャリアガイダンス部と各学年が連携する体制を構築する。

3 生活指導の充実

芦花高校の生徒としての帰属意識を醸成し、挨拶の習慣や生活規律の向上を図る集団づくりを組織的に推進する。恒常的に生活の場、公共の場の美化に努める。

4 特別活動、部活動の充実

学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動において、高い目標に挑む活動を推進し、生徒の主体性、向上心、他者と豊かに関わるコミュニケーション能力を育てる。さらには、自主・自律の力を育み、望ましい生活習慣を確立させるとともに、体力の維持向上、心身の健康の保持増進を図る。

5 生徒が種々の能力を発揮するための基盤となる個人の力、集団の力の育成

全ての教育活動を通して、豊かな人間性、健康と体力、人間尊重の精神、道徳性・規範意識、文武両道を実践する力、仲間と切磋琢磨する気力、共感的な学習・生活集団、志（こころざし）、自主性・自律性、向上心、創造力、協調性・協働性（自己理解・他者理解の力）、コミュニケーション能力、社会性、努力を継続できる意志、誠実さ等の育成に努める。

6 国際理解教育、国際交流の推進

海外学校間交流等により国際理解教育を推進する。留学生や学校訪問を積極的に受け入れ、オンライン交流等を活用することにより、生徒に異文化理解の機会を与え、多様な価値観を受け入れる態度を育成する。

7 関係諸機関との連携・学校PR

近隣地域や教育機関との連携・交流、学校設定科目「人間と社会」の活動、学校開放、教育活動に係る情報発信等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

経営目標達成に向け、教職員が一丸となって生徒主体の教育活動を展開し、以下の目標のもと、方策の確実な履行に努める。

1 学校経営・組織体制

(1) 目標

教職員が「チーム芦花」の一員として、ライフ・ワーク・バランスよく学校経営計画を着実に履行していく。また、分掌・学年・教科・経営企画室間の連携を強化し、企画調整会議を基軸とした学校経営を行う。

(2) 方策

- ① 学校経営計画に基づき各分掌・学年・教科は互いに連携・協力して、目標達成に向けた分掌・学年運営、教科指導を行う。また、P D C Aのマネジメントサイクルを機能させ、改善に生かす。
- ② 各種委員会、校内研修等を通して、職員が協働して教育課題の解決に努める。
- ③ I C T、統合型校務支援システム、定期考査採点・分析システムの利活用や部活動指導員を導入、会議時間の短縮とともに、計画的な仕事の進め方を通して、業務の効率化、在校時間の縮減に努め、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、男性職員を含め、育休を取得しやすい環境整備を行う。
- ④ 教職員一人一人がその職責を十分に自覚するとともに倫理観や規範意識等をより一層高め、「教職員の服務に関するガイドライン」に基づき、服務の厳正に努める。

2 学習指導

(1) 目標

高大接続改革を踏まえた「進学指導研究校」の取組、学力スタンダード事業等の実施を通して、生徒の高い進路希望実現を図るため、学力向上を図る授業、学ぶ楽しさ、わかる・できる喜びを実感できる授業、Society5.0を生きる力（主体性をもって学びに向かう力、論理的思考を行うための読解力、科学的に思考・吟味し活用する力、探究力等）を育む授業を意図的・計画的に推進する。また、保健体育の授業を通して、体力の維持授業を通して、体力の維持向上、健康の保持増進に努める。

(2) 方策

- ① 授業の目標設定を生徒の進路希望実現を意図して明確にし、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題解決力、探究力、創造力を育成する授業を推進する。
- ② 単位制の利点を生かし、進路希望実現を意図した系統的な科目の履修及び興味・関心の幅を広げる科目の履修を通して、確かな学力や幅広い教養を身に付けさせる。
- ③ TOKYO スマート・スクール・プロジェクト、東京都教育ビジョン（第4次）及び「未来の東京」戦略等に基づき、一人1台端末やI C Tサポートツール等、デジタル技術を活用した教育活動を推進して、生徒の主体的な学びを支援し自学自習の力を育む。特に、学習支援クラウドサービスを活用した自宅学習課題の設定及びその履行率を高める指導を通して、生徒が自主的・自律的に学習に取り組む姿勢や態度を育む。
- ④ 生徒の主体的・能動的な学習姿勢を育むため、アクティブ・ラーニング型授業の推進等、指導方法の工夫に努める。また、講習の実施を通して、生徒の進路希望に応じたきめ細かな指導を行う。
- ⑤ 始業前、放課後の自学自習時間の充実、自習室・自学自習スペースの活用促進、外部人材の活用を通して、生徒の自学自習を支援する。
- ⑥ 教員相互の授業見学、授業研究等のO J Tを通して、学校全体の授業力向上に努める。
- ⑦ 外国人指導員J E T・A L Tの活用やTokyo Global Gateway（東京都英語村）体験等を通して、生徒が日常的に生きた英語に触れ、英語4技能の向上を図るとともに、多様な文化への理解を深める。また、英語教材

「Welcome to Tokyo」の活用を通して、日本・東京の文化、歴史等の理解の促進、英語によるコミュニケーション能力の伸長、国際理解教育の推進に努める。

- ⑧ 学校図書館を調べ学習や新聞を活用した学習（NIE）、言語活動や探究活動の場として活用し、読書活動とともに、主体的・対話的で深い学びを推進する。また、ビブリオバトル（書評合戦）への参加を通して、表現力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- ⑨ TOKYO ACTIVE PLAN for students（総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画））に基づくとともに「体育健康教育推進校」として、運動やスポーツとの多様な関わりを通して健康で活力に満ちた生活をデザインする資質や能力を育成するとともに、体力の維持向上、心身の健康の保持増進を図るため、毎時間の体育の授業における体幹トレーニング（一校一取組）の実施等に計画的・効果的に取り組む。
- ⑩ 成年年齢引下げに伴い、生徒自身が在学中からより一層、社会との関わりをもち、社会の一員であることの自覚を深めるため、「私たちが拓く日本の未来」「社会への扉社会への扉」等の活用を通して、主権者教育の充実に努める。

3 生活指導

(1) 目標

挨拶の励行、生活規律の確立を図るとともに、社会を生き抜く上で必要な責任感、協調性、コミュニケーション能力、思いやりの心を身に付けた生徒を育成する。このため、生活指導部を中心とした組織的指導を行い、規範意識及び望ましい生活習慣の確立を図る。また、部活動や種々の学校行事を通して、協働し、互いに高め合う姿勢や態度を育成する。さらには、道徳教育の全体計画、学校安全の全体計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育、安全教育の充実に取り組む。

(2) 方策

- ① 授業規律をはじめとする基本的な生活習慣の確立を図るとともに、挨拶励行、時間厳守に向けた指導、身だしなみ指導を組織的に行う。
- ② SNS東京ルールに準拠した「芦花高校SNSルール」に基づき、情報リテラシー、情報モラルを育成する。
- ③ 道徳教育の全体計画に基づき、全教育活動を通して道徳的価値を自覚させ、他者を思いやる心や規範意識の育成を図る。
- ④ 教育相談部会・学校いじめ防止対策委員会の計画的な実施及びスクールカウンセラー等による面接を通して生徒の悩みの把握及び解決に努めるとともに、生命尊重に資する教育やSOSの出し方に関する教育を推進するなどして、生徒の健全育成に向け、学校の相談機能の充実に努める。生徒の心身の健康面における状態を組織的に把握し、迅速に対応できるようにする。
- ⑤ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケートを年3回実施し、いじめの早期発見及び未然防止に組織的に取り組む。
- ⑥ 「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画」に基づき、多様な学びの場を備えたインクルーシブな教育を推進する。特別支援教育の視点に立って、特別の支援が必要なケースには、ホームルーム担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー等によるケース会議を効果的に機能させるとともに、都立学校発達障害教育推進エリアネットワークの活用を通して、支援体制の充実に努める。
- ⑦ 校内美化に主体的に取り組む生徒を育成する。
- ⑧ 人間尊重の精神及びコンプライアンスの徹底を図り、体罰・暴言等の防止に組織的に取り組む。
- ⑨ 学校安全計画の全体計画に基づき、「地震と安全」「防災ノート」「東京マイ・タイムライン」等の活用を通して、避難訓練、安全講話、防災訓練等を計画的に実施し、危険を予測し回避する力や、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。防災訓練では、自助、共助の大切さや奉仕の精神を体得させるため、地域社

会と連携し、地域に貢献する活動を取り入れて実施する。

- ⑩ 学校 2020 レガシーの構築に向け、地域社会での活動を通してボランティアマインドを育むとともに、アスリート等との直接交流を通じてスポーツのすばらしさを実感し、自己を肯定して自らの目標を持ち、ベストを目指す意欲と態度を育む。

4 進路指導

(1) 目標

組織的・計画的なキャリア教育を通して「10年後の輝く自分」を見つめて高校卒業後のキャリア・ビジョン（進路希望）を創造し、夢をかたちにする力を育むとともに、「進学指導研究校」として、国公立大、難関私立大をはじめとする生徒の進路希望実現に向けた指導を、キャリアガイダンス部を中心として全教員で行う。

(2) 方策

- ① 進路指導に係る取組のより一層の充実を図り、キャリアガイダンス部・年次（学年）・教科が一体となった進路指導を計画的に行う。
- ② 自己の将来の在り方生き方に思いを馳せ、高校卒業後のキャリア・ビジョン（進路希望）を創造する力を育むため、キャリア教育を組織的・計画的に行う。
- ③ 生徒に高い進路目標をもたせモチベーションを高めるとともに、学力分析会、志望校検討会の実施を通して、進路希望実現に向けたきめ細かな指導を行う。
- ④ 進路ガイダンス、大学説明会等の実施を通して、生徒一人一人の高い進路希望を創出していく。また、講習の計画的実施、自習室、自学自習スペースの利用促進等を通して、難関に挑む意欲を高めていく。
- ⑤ 生徒に学力テストを受ける意義を自覚せざるとともに、生徒が個人の弱点や課題を把握し、学力向上のための学習方法を具体化し、実践できるよう、学力テスト結果に基づく指導を効果的に行う。
- ⑥ ホームルーム担任による個人面談・三者面談、キャリアガイダンス部による進路相談等、面談・相談機能の充実を図り、生徒の進路意識の啓発に努める。また、生徒・保護者への進路情報の提供を通して、学校、生徒、家庭が一体となった進路指導を行う。
- ⑦ 団体戦で臨む受験への意識を醸成するため、学年集会、進路指導会等を通して、生徒のモチベーションの維持・向上を図る。

5 特別活動・部活動

(1) 目標

集団活動を通して、芦花高校の生徒及び社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。また、生徒の体力の維持向上、健康の保持増進に計画的に取り組む。

(2) 方策

- ① 学校行事では互いに高め合う集団づくりを意識し、帰属意識や参加する喜びが実感できるよう、指導方法を工夫する。
- ② ホームルーム活動では望ましい人間関係を形成し、帰属意識や連帯感を育む。
- ③ 部活動では部員同士の連帯感を深め、互いに切磋琢磨し、高め合う姿勢や態度を育む。また、文武両道を指導し、学業との両立に努めさせる。
- ④ 部活動指導員の配置、部活動振興予算重点配付を活用し、部活動の活性化、競技力の向上、体力の維持向上及び心身の健康の保持増進、豊かな人間関係づくりに組織的に取り組む。
- ⑤ 生徒会活動では、よりよい学校生活づくりに参画し、協力する姿勢や態度を育む。

6 募集・広報活動

(1) 目標

芦花高校の教育実践を広く都民、中学生に発信し、本校の教育活動に対する理解や信頼を促進する。

(2) 方策

- ① ホームページで学校の特色を積極的に発信し、更新頻度を高めて本校の特色ある教育活動の様子を広く都民及び中学生に発信する。
- ② 学校訪問者への本校の特色や教育活動の様子に係る理解を促進するため、授業及び部活動の成果展示を校内で行う。
- ③ 全教職員の連携・協力のもとに授業公開、学校説明会を計画的に実施し、入学したい学校、受検したい学校とする。

IV 数値目標

- (1) 大学現役合格者数を、国公立大4名・難関私大（早慶上理・ICU4名、GMARCH35名）40名、中堅私大（成成明國武・日東駒専）100名以上とする。
（前年度 国公立大4名、早慶上理・ICU2名、GMARCH33名、中堅私大142名）
- (2) 学校評価の学習指導、生活指導、進路指導における生徒の肯定的評価を85%以上にする。
（前年度学習指導87%、生活指導87%、進路指導92%）
- (3) 部活動加入率を85%以上とする。（前年度 80%）
- (4) 入学者選抜応募倍率を推薦3.5倍以上、第一次募集1.9倍以上にする。
（前年度 推薦3.16倍、第一次募集1.97倍）
- (5) 東京都体力・運動能力調査の体力合計点平均値を、東京都平均以上とする。
（前年度 男子、女子ともに東京都平均とほぼ同じ）
- (6) 部活動で関東大会レベル出場数を2以上とする。
（前年度 弓道部、水泳部：全国大会出場）